

産業廃棄物処理計画書

2024年5月30日

熊本県知事 殿

提出者

住所 東京都板橋区成増五丁目9番地4号

氏名 株式会社 湖池屋

代表取締役社長 佐藤 章

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

電話番号 03-3979-2115

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条の9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 湖池屋 九州阿蘇工場
事業場の所在地	熊本県上益城郡益城町宮園二ノ迫1024番地
計画期間	2024年4月1日から 2025年3月31日まで

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	パン・菓子製造業
②事業の規模	44,574千円 (2023年3月期実績)
③従業員数	90名 (2024年2月現在)

④産業廃棄物の一連の処理の工程	廃棄物	発生源	処理(最終)
	・廃プラスチック	包装フィルム プラスチックパレットなど	セメント燃料 プラスチック原料
	・動植物性残渣	じゃがいもに着いてきた芽や土や根	堆肥
	・汚泥(脱水)	排水を浄化処理する工程で発生した泥状の沈殿物	堆肥
	・木くず	梱包資材パレットなど	パーチクルボード原料

(日本産業規格 A列4番)

受付

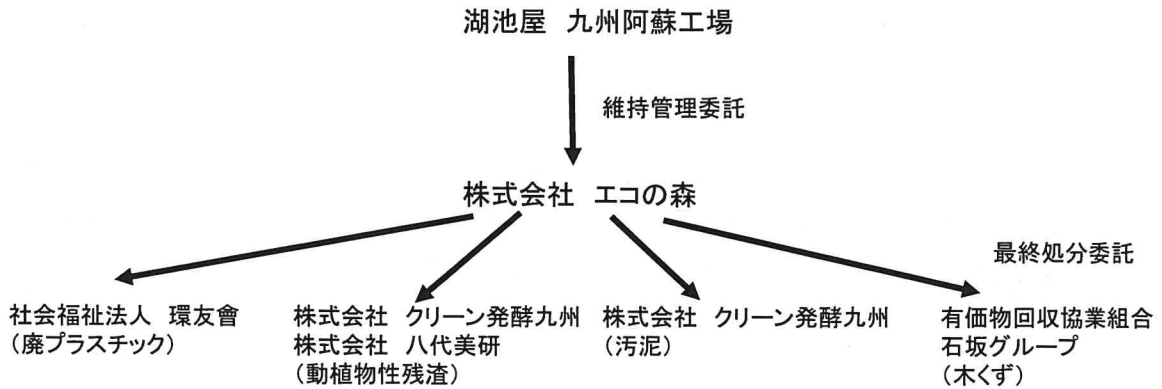
6.6.19

御保第

号

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

【前年度 (2023 年度) 実績】											
① 現状	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず						
	排出量	13.20 t	247.19 t	441.85 t	0.74 t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)											
・ 廃プラについては、包装資材ロス削減を目標として生産活動を行った。 ・ 動植物性残渣については、じゃがいもの芽を成長させないような管理体制の確立を目指している。 ・ 汚泥については、排水処理工程のオペレーション技術の向上を目指し処理量の削減を目指している。											
【目標】											
② 計画	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず						
	排出量	18.81 t	352.25 t	629.64 t	1.05 t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)											
・ 今年度7月より稼働時間が1.5倍に増加する計画の為、昨年度よりも廃棄物排出量の増加が予想されるが、これまでに実施している取り組みを強化して削減に努める。											

産業廃棄物の分別に関する事項

① 現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)
② 計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

① 現状	【前年度 (2023 年度) 実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)							
	-							

② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の計画)							
	-							

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

① 現状	【前年度 (2023 年度) 実績】							
	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	(これまでに実施した取組)							
	-							

② 計画	【目標】							
	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
	(今後実施する予定の計画)							
	-							

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

【前年度 (2023 年度) 実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t			
	産業廃棄物の種類							
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
-								

【目標】								
② 計画	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	- t	- t	- t	- t			
	産業廃棄物の種類							
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t	t	t	t	t	t
(今後実施する予定の計画)								
-								

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

【前年度 (2023 年度) 実績】								
① 現状	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず			
	全処理委託量	13.20 t	247.19 t	441.85 t	0.74 t			
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t			
	再生利用業者への処理委託量	13.20 t	247.19 t	441.85 t	0.74 t			
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	産業廃棄物の種類							
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t
(これまでに実施した取組)								
維持管理委託業者の管理のもと、再利用業者への最終処理を依頼し、リサイクルの推進を図っている。								

【目標】									
① 計画	産業廃棄物の種類	廃プラ	動植物性残渣	汚泥	木くず				
	全処理委託量	18.81 t	352.25 t	629.64 t	1.05 t	t	t	t	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	再生利用業者への処理委託量	18.81 t	352.25 t	629.64 t	1.05 t	t	t	t	
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	産業廃棄物の種類								
	全処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	再生利用業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	認定熱回収業者への処理委託料	t	t	t	t	t	t	t	
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t	t	t	t	t	t	
	(今後実施する予定の取組)								
	<p>今年度7月より稼働時間が1.5倍に増加する計画の為、昨年度よりも廃棄物排出用の増加が予想されるが、これまで通りの取り組みを実施し削減に務める。 引き続き、維持管理委託業者の管理のもと、再利用業者への最終処理を依頼し、リサイクルの推進を図っていく。</p>								
※事務処理欄									

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1) ①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2) ②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3) ④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

第 面

について